

令和2年度 第1回市川市少年センター運営協議会 会議録（発言要点）

日時 令和2年7月21日（火） 15時00分～16時00分
場所 生涯学習センター 第3研修室
出席 石原会長、三部副会長、澁谷委員、旭委員、田口委員、立川委員、吉原委員
入江委員（代理：高知尾氏）、岸委員、稲垣委員、長崎委員
（教育委員会）小松崎所長、城戸所長、窪田副主幹、野田副主幹

【運営協議会委員委嘱辞令交付式】

- 1 欠席者を除く新任の6名全員に、学校教育センター小松崎所長より委嘱状交付
（欠席者については会議後交付）
- 2 教育委員会挨拶 [小松崎所長]

【運営協議会】

- 1 運営協議会 開会
- 2 委員の紹介及び職員紹介
- 3 会長・副会長選出及び挨拶 [石原会長・三部副会長]
- 4 報告 [城戸所長]
 - ①令和元年度（平成31年度）活動報告
 - ②令和2年度活動方針と計画
 - ③最近の補導、相談活動実施状況（令和2年4月～6月）
 - ④少年補導員の委嘱状況
- 5 警察より最近の少年の補導状況等について
市川警察署 [吉原委員]
 - ・市川警察署管内の補導状況について、新型コロナの関係もあり、検挙人員や補導件数は昨年と比べて減少傾向にある。
 - ・自宅（在宅）学習が進んでいる原因もあり、家庭内でのトラブルの相談が多数挙がっている。
内容は、勉強がいっぱいあるのでそれをなかなか言ってもやってくれない。インターネットトラブルがすごくある。
その中でも、ゲームで課金という形で親に見つかったり、わいせつな画像をインターネットで知り合った者に送ってしまったといった相談等々が多数ある。
取り締まり等を推進し、児童ないし保護者に対して注意喚起をして対応していきたい。
 - ・特異な補導状況としては、今、スケボーをやっている者が多数おり、その中でも敷地のフェンス等がある中に入り込んでまでやっている。
コロナの関係で、行徳の使用する公園であったり大慶園であったり、スケボーができるところが全て閉鎖されてしまった。そういう時にどこを使うのか。路上でやっている者もいて通報があるパターンや、施設内に入り込んでやっっている状況がある。立ち入ることについても検挙活動を

実施している。

- ・コロナの関係で各種防犯活動ができない状況下で、どういう風に対応するのか、模索中。
先般、市川市教育委員会と協力して、児童の安全安心のために「いかのおすし」という動画を、当署、行徳署、市川教育委員会の協力のもと、作成し、配信することによって、児童に対する注意喚起を実施している。市川駅と本八幡駅に「いかのおすし」の音楽がたまに流れているので参考にさせていただけると。
- ・7月の下旬から各学校と連絡調整を実施等して、そのような新しい生活様式のもと、コロナの対策を行いながら、防犯パトロールや不審者対応訓練等を引き続き実施していく。その際にご連絡いただき、ご一緒に少年の健全育成という形で対応していきたい。

行徳警察署

[入江委員（代理：高知尾氏）]

- ・行徳署自体の特徴はすごく間隔が狭いという特徴があるが、人口的にはそこまで少ない。
- ・件数は行徳署でいうと去年とそんなに変わらない。コロナ下の中であってもそこまで補導に関してはあまり変化している印象がない。が、やはり人出に関しては一時期大変少ないことがあった。
外にどうしても子供は出たいと思うので、夜中に集まったりが多かった。
- ・心理的な変化や環境の変化によるが、家族と自宅にすることが多くなり、家の中で家族とうまくいかないというのが多くなり、子供もそうだが、子供の育成に関する相談が随分増えている。
本来であれば家族といる時間が長くなるのはよいことだと思うが、やっぱり家庭によってはなるべく顔を合わせない方がよい、学校でいる時間があるから今まではよかったが、ずっといるのは厳しいというのが結構ある。それが嫌で家出をし、非行に走ったり補導されたりというのが最近結構出てきている。一概に家族と一緒にいるのは必ずしもよいという家庭ばかりではないということ視野に入れ、最近では補導を防止するためにも少年のほうにもよく話を聞いている。

6 協議

[窪田副主幹]

- ・令和2年度 少年センター活動方針と計画 について
○運営テーマ「インターネット犯罪に巻き込まれないために」

【質問・提案・要望・感想等】

(岸 委員) SNSを活用した相談窓口、何か起きた時の一番身近な入り口になる。アクセス数388件あって相談件数177件、そのうち気になる相談11件。機能している。

特に、城戸先生のご説明にありましたように、こちらから発信できる。大きな相談だけでなく、日常的に何かと季節ごとに「これから新学期が始まるね」とか、ちょっとしたストロークみたいなものが安心、何かあったらここに相談すればいいんだ。そこから重たければまた相談の窓口につなげていく仕組み。非常におもしろい試み。機能している。もう少しぼくも立ち入りたい。少し経過を見守りたい。

気になる相談、例として集めておくとよい。どんな対応をしたかという、よい資料。資料を作っておくことも必要。

(田口委員) ネットパトロールで心配な書き込み等あれば当該の学校に連絡をして、その学校が青少年や保護者に指導や注意喚起というところを今見ているのだが、実際にそういうことをすると子供や保護者はどんな反応を示すのか、実例か何かあれば教えていただきたい。

(城戸所長) こちらにしても難しいと感じるのが、保護者がオーケーを出している場合、ユーチューブなどをこちらで見て「これ、まずいよね」というものを、よくよく見ていくと保護者

が後ろでピースサインをしているとか、一緒にピースサインをして映っている。これに対してどう指導していくのかという時に、こちらのインターネットトラブル防止教室で、その場だけじゃなくて、これが広がってずっと残るという実例を伝えながら伝えていくのがまず第一。これを学校のほうに連絡させていただきますと、子供たちのほうは二通りの反応があり、それがなぜ悪いのかという理由を分からない状態。「これ、何かいけないんですか」という時に、危険性であったり、これが危ないんだということをお子供たちに知らせてあげる。子供たちのほうにも気持ちの中で「これ、まずいよな」というのがありまして、言われた瞬間に「ああ、やっぱり来たか」という反応がある。得てして多かったのが、保護者の方が初めて知るとというのが非常に多かった。それを聞いた瞬間に「すいませんでした」という反応。子供たちはネットを繋げることに非常に意識が強いので、保護者によっては「うちはそういうのに繋がっていない筈です」と言うんですが、でも実際は繋がっている。何かというとフリーWi-Fiのところに行ってそこで繋がっている。実際子供たちはインターネットなどの知識が保護者より上回っているために、そういうところでトラブルになっていく。対応としては学校を通じて指導をお願いすることが多い。

6 事務連絡

[城戸所長]

- ①委員報酬辞退・委員報酬振込先確認について
- ②会議録や委員名簿等の公表について
- ③次回予告 10月6日(火)午後3時 第3研修室
- ④駐車券処理について

8 閉会